

東九州短期大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		東九州短期大学（学部・学科等の課程）		設置者名		学校法人 扇城学園				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）				
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数	
							実数	個別		
	幼児教育学科	昭和43年度	40人	幼二種免	令和元年度	19人	17人	17人	8人	
入学定員合計			40人	合計		19人	17人	17人	8人	
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。 									

教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和4年10月24日（月）

実地視察大学：東九州短期大学

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等については、全般的に基準を満たしており、良好に実施されている。引き続き教員養成の水準の維持・向上に努めてもらいたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○教職課程の目標に「専門分野の幅広い知識と実践力」を備えた教師の育成を挙げているが、その目標を明確化・具体化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織がより一層充実したものとなるように、今後も努めてもらいたい。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○教育実習に力を入れて取り組んでいることは評価できる。一方で、座学の授業科目では、教育職員免許法施行規則上のどの事項（領域に関する専門的事項又は保育内容の指導法）に関する授業科目が必ずしも明確といえず、学生がそれらの科目ごとの趣旨を理解し体系的な学びができていないのか判然としない印象であった。教職課程における授業科目の位置づけを学生が十分に理解し、主体的に学ぶことができるような授業作りを検討すること。また、これを実現するために、教員のFD研修等を通じ、現代的な教育課題や指導法等についても自己研鑽に努めていただくとともに、授業評価アンケートを活用するなどして、教員養成の水準向上を図っていただきたい。

○採用時に教員の研究業績を審査しているとのことであるが、授業科目を指導する際に期待される専門的知識が、研究業績等を踏まえると充分であるか判然としない教員が散見された。採用時における学内の審査のあり方についても検討することが望ましい。

○研究業績等が比較的多い一部の教員に多くの授業科目の担当が集中しており、教員間で負担が偏っているように見受けられた。研究業績等が比較的少ない教員に対して、今後研究業績等を積むことができるよう、学内の支援体制を厚くすることが望ましい。

3. 教育実習の取組状況

○学生の教育実習の様子を録画し事後指導において活用するなど、教育実習による学びが充実するよう取り組んでいる点は評価できる。

○教育実習のほか、プレ実習やボランティアサークルに参加する学生のために交通費

の一部を補助するなど、学生が教育現場を多く経験できるための支援も充実している。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○実習サポートルームについて、学生がより活用しやすいように、データの管理体制や指導教員の常駐等について検討することが望ましい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会及び公立幼稚園の園長や会長と教育実習の内容等についてより協議の場を設けており、教育委員会等と協働していることが分かった。

○プレ実習やボランティアサークルを通じて地域のボランティア活動に積極的に取り組んでいる点は評価できる。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○模擬保育室が設けられており、教育現場に近い環境で模擬授業の演習ができるよう整備されている点は評価できる。

○図書館の一層の充実のため、図書のための予算の拡充を検討すること。特に、幼児教育関連だけでなく教職関連全般の図書の充実を図ること。

7. その他特記事項

○学生が教育実習や学生ボランティアを通じて、教育現場に触れる機会を多く提供している点は評価できる。今後も継続して取り組んでいただきつつ、教員組織の質向上を図っていくことで、新たな教育課題に対応できる教員を養成できるよう検討していただきたい。